

1. (小野寺会長挨拶)

身の回りの樹木、草花、雑草、を感じる

尊敬する会員のFさんからのお誘いでお茶の会に入って半年。

抹茶を立てて飲むという楽しさが味わえるという思惑は、即打ち砕かれ茶道の師匠の下で毎回、作法、用語等諸々の茶道を習うことが始まった。楽しむためには茶の心を歴史から学んである程度のレベルまで達しなければ味わえない。最もなことである。茶道と称されるように、茶をたてる空間、部屋、軸、花、茶道具、等々

年寄りには覚えきれない量である。それが苦しみでもあるが楽しみになってきた。今まで無関心だった自然の移ろい、雑草、ひっそりと自己主張をしている草花に目を止めるようになった。日本の伝統文化に親しめるきっかけを作ってくれたFさんに感謝。



2. 9月・10月の事業内容

状況 新型コロナウイルスの影響で活動が昨年と同様に限定された内容になっている。岩手県での感染者数も減らない中、多人数での対面形式事業（講演会、企業訪問、サロン、企業紹介講演会等）はできない状況が続いている。このため、相談会を中心とした活動になっている。また、会報を新たに作成して、会員間のコミュニケーションツールの一つとして運用を開始した。

① 事業の実施及び実施予定

相談会

9月 6日(月) 9日(木) 22日(水) 24日(金)

10月 4日(月) 7日(木) 20日(水) 22日(金)

拡大相談会 10/30(土) 10:30～ 上田公民館視聴覚教室開催予定

内容 シニアの会活動の方向性について議論

② ご近所支え合い活動助成金 について

- ・実施状況報告書の提出を求められる。(10月12日納期)

予算執行状況を含め、実施状況報告書を作成して提出予定(事務局)

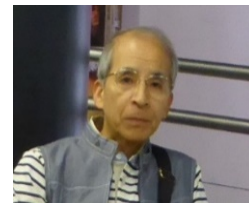
- ・昨年同様事業中止申請書の提出も同時に行う予定

事業計画としては3年目にあたり完結年度ですが、2年続けて、新型コロナウイルスの影響で事業中止せざるを得ません。来年度の申請をどうするかについては、役員会、コウサポいわてに相談しながら、継続テーマで申請可能か、もしくは新たなテーマでの申請が必要かを見極めて対応していきます。

3. 会員紹介

馬場守さん（会計監査）

いわてシニアの会の監査を担当している馬場です。生まれは新潟県柏崎市の海岸沿いで、子供のころの夏の遊び場は日本海の波打ち際でした。家から海浜まで徒歩でしたが、小さい身体には防砂林の先に広がる砂浜は小山のようで、子どもたちは「砂やま」と呼んでいました。今でも、点在する砂やまのそこかしこに生い茂る「浜グミ」の赤い実を思い出します。盛岡にきて45年になりますが、森や林に恵まれた岩手が第二の故郷になりました。岩手大学工学部を定年退職してしばらく技術コンサルタントとして技術開発に携わってきました。最近はずいぶん「 $\sin \cdot \cos$ の積和の公式、・・・etc.」などは空では出てきませんが、物事の論理や筋道などの理解はまだ大丈夫のようです。本会では事業の一つに「シニア技術相談会」を開設しています。これはという事案がありましたらぜひ気軽に声をかけてください。



対馬登さん（相談会対応メンバー）

電子部品会社に26年勤務し、研究・開発から量産立ち上げまで経験してきました。その後岩手大学ものづくり技術研究センター花巻サテライトに11年ほど勤務し、産学官連携業務を経験させて頂きました。縁あって昨年9月より岩手大学工学部附属ものづくりエンジニアリングファクトリー起業家支援室に勤務することになり、起業家支援室では全国的にも珍しい取り組みである「学内カンパニー」の支援を行っています。学内カンパニーは学内に仮想的な企業を立ち上げて、学生が企画から製品開発、販売までの企業活動を経験できるもので、ものづくり以外に広報活動や人づくりのカンパニーなど理工学部以外の学生も参加する全学的な活動となっています。教育改善プログラムとして平成21年度から始まり、今年度で13年目となります。起業家支援室は理工学部東門の共用教育研究棟1階奥に部屋があります。私を含め2名が週3日ずつ勤務し、私は月曜から水曜を担当しています。若い学生たちのエネルギーに圧倒されることも多い日々ですが、おかげさまで気持ちも若返ったような気がします。



4. コラム 『紫波の由来は？』

盛岡と花巻の間にある紫波町は、オガールプロジェクトをはじめとした「公民連携によるまちづくり」で昨今注目を集めている。ところで紫波町、志和稲荷神社、志波城跡公園と、「しわ」の呼び名がいくつかある事をご存知でしょうか？今回は「しわ」の由来の一端を紹介しよう。歴史書には「子波（しわ）」「斯波（しわ）」



【志賀理和気神社本殿】

「志和（しわ）」等が記載されているという。また次のような説もある。北上川流域の河岸段丘のツバ（崖）の転、シボ（萎）んだ地形の転、シワ（たわまって曲がったところ）からの由来、志和稲荷神社由来、大和朝廷の勢力範囲のシハ（終末・末端）由来、志賀理和気神社（赤石神社）の神号の略、「州曲（スワ）」で河川の氾濫原曲流地由来など、様々な説がある。しかし当コラムで紹介するのは「赤石神社」にまつわる伝承である。この伝承とは、『高水寺城主の斯波詮直が当地を通った際、北上川の川底に赤石があって水波が紫色に漂うので「けふよりは紫波と名づけん この川の 石にうつ波 紫に似て」という歌を詠んだという。これに因んで郡名は「紫波郡」、社名は「赤石大明神」と称されたといい、引き揚げられた赤石は現在も境内に祀られる』というものである。実際に日詰にある志賀理和気神社（赤石神社）に行ってみると、確かに赤い石



【奉納された赤石】

が祀られてあった。神社本殿は手前側に新築工事が行われているが、奥に本殿、赤石の拝殿等はそのままなので、興味ある方は参拝してみてもいいかと思う。この神社は「南面の桜」有名であり、桜のシーズンにまた出かけてみたいものである。では志和稲荷の「志和」、志波城跡公園の「志波」の名前の由来は？という疑問が湧いてくるが、これは別の機会としよう。

5. 新たな会員の募集について

新規会員の紹介をお願い致します。会員増は会員の皆様の人脈日よりです。

本会報を使っても構いませんので、お知り合いの方へのお声かけお願いいたします。

連絡先 事務局 志田満

携帯 090-2791-1803 e-mail mitshida.1029@docomonet.jp

6. 編集後記

8月に草刈り機デビューしました。昨年来放置していたネコ額の畑が、雑草伸び放題、半ば樹木状態となったため、重い腰を上げた次第です。機種選定は、初心者で長時間作業するわけでもないの、充電式の電動タイプを選びました。32Vで約1時間作業できます。結局畑の草刈りに3日（約3時間）、周囲の作業に1日費やしました。また、同時に電動式のチェーンソーも調達して、畑の周りに植えてある木々の枝の伐採作業も行いました。結構足腰にきています。思ったより重労働ですね。来年からこの畑で「お百姓さんごっこ」を行うつもりです。